―文化の薫る活力ある地域づくりをめざして―　財団では、このような事業を行っています。

普及啓発事業

1. 財団ニュース「作州路」21 号の発行

2. 普及講座の開催

「漆のお箸をつくろう」
講　師／加藤 萌
期　日／平成 30 年 1 月 27 日（土）
会　場／勝央町公民館工芸室

「漆のお箸をつくろう」の様子

（その他）
陶芸入門講座（年 8 回）
絵画教室（年 10 回）
ちるどれんずあーとプログラム（年 5 回）
他

3. 事業協賛に伴うＰＲ活動
「金時祭花火大会」への協賛

「ミマサカコドモ絵画展」会場風景

芸術文化活動事業

【主催事業】
■絵画展の開催
○第 14 回ミマサカコドモ絵画展
会　期／平成 30 年 1 月 6 日
～平成 30 年 1 月 28 日
会　場／勝央美術文学館
展示室・町民ギャラリー 1・2

■芸術鑑賞
○五嶋龍チャリティー
ヴァイオリンリサイタル
日　時／平成 29 年 10 月 10 日
会　場／勝央文化ホール

「五嶋龍チャリティーヴァイオリンリサイタル」チラシ

【共催事業】
■作品展の開催
○杉浦慶侘作品展「　　の　しかた」
■企画展の開催
《文学》
○小企画 35「木村毅にみる文学の世界」
○小企画 36「半七とホームズ」
《美術》
○コレクション展 vol.37
郷土の画家シリーズ「春を謳う、夏を愉しむ」
○コレクション展 vol.38
郷土の画家シリーズ「素描と淡彩Ｘ」

【助成事業】
ブラック・ボトム・ブラスバンドコンサート
勝央金時太鼓保存会活動
勝央町文化協会活動事業

【後援事業】
絵本作家いせひでこの世界 こころの木
南こうせつコンサートツアー 2017
マリンバ x ピアノ x 和太鼓 音の饗宴 Music Harvest
宝くじ文化公演 吉田兄弟コンサート 2018

その他の事業

1．文化財資料収集保存事業
2．学術的研究及び図書の発刊事業
への助成事業を継続しておこなっております。

地域の文化活動を応援します！

地域芸術文化振興のための助成活動を実施しております。詳しい内容は、財団事務局へお尋ねください。

財団では皆様の貴重なご寄付をお待ちしております！

皆様のご寄付は、地域文化事業の実施に役立てられています。
ご寄付をいただいた皆様は、税額控除をうけることが出来ます。

表紙写真について【「弁天渕」～「長尾山石仏の道」ー勝央町の修験道ー】

勝央町文化財保護委員長の赤木耕三氏と一緒に、「弁天渕」から「石仏の道」までを取材いたしました。渕は、氏が子どもの頃もっと深く水練の場であったそうで、そこから出現する方状節理は、天邪鬼が積んだと云われる見事な地球の造形美です。その上に勝央町指定文化財となった「八臂弁財天（はっぴべんざいてん）」が、祀られています。氏が文中に挙げた国学院大学の花部英雄先生の考察「間山～長尾山 修験道行場説」について、整備に関係したと思われる人物に**「泰禅上人」**が挙げられます。以下、その足跡を紹介します。

泰禅上人（大阿闍梨法印慈範泰禅）略歴
寛保元年（1741）広戸村（現 津山市勝北地区）市場の芦田太郎左右衛門 長男として生まれる。
宝暦 3 年（1753）仏道に入る（師は、観音寺 10 代住職泰応）
安永 4 年（1775）観音寺 11 代住職を受けたが、その年に隠居し長尾山に籠もる。翌年長尾山に誠心院建立。
同　7 年（1778）上西国三十三ヶ所観音霊場を勧請。（同 9 年完成）
寛政元年（1789）岡村に道隆寺、平村及び六ヶ村に四国八十八カ所霊場建立。金毘羅宮建立。
同 11 年（1799）津山河辺村松風庵の庵主となる。
享和元年（1801）津山大円寺に入寂、61 歳。墓碑は、観音寺、長尾山、松風庵にある。

編集後記

本紙にご寄稿いただいた、赤木氏のご案内で「弁天渕」「石仏の道」を取材いたしました。神聖さを讃えた場所で「修験道」の聖地であったとの推測も頷けます。氏の言で、「行場」のど真ん中に現在の「勝央中学校」があると聴き甚だ感心して、中 1 の息子に「あんたが、朝夕長い坂道を上り下りしとるんは、毎日修験道に根差した有難い修行をさせていただいとるんで！」と諭したところ、「それ、むっちゃ後付け！」と鼻で笑われました。しかし、いずれ周辺整備された際には、是非皆様にも訪れて欲しい場所です。（EN）

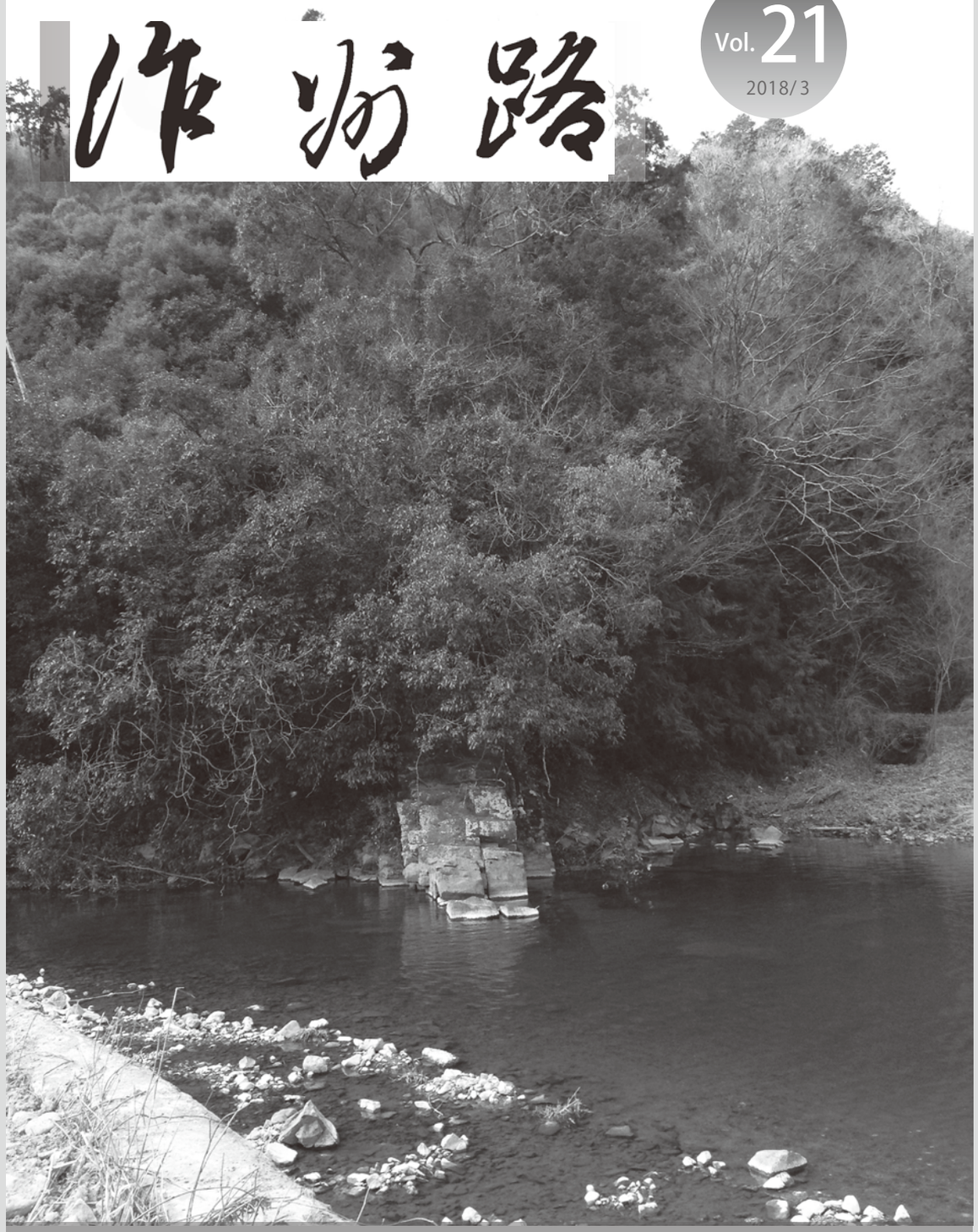
公益財団法人　美作学術文化振興財団
〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田207-4　Tel. 0868-38-0270 ／ Fax. 0868-38-0260

発行日：2018 年 3 月 31 日
編集・発行：公益財団法人美作学術文化振興財団
印刷：友野印刷株式会社

公益財団法人 美作学術文化振興財団

作州路

Vol. 21
2018/3



この場所は、勝央町を流れる「滝川」の河内と平の境に辺りにある「弁天渕」と呼ばれる渕（深く流れが緩やかな場所）です。写真中央は、“天邪鬼”が積重ねたと伝わる「畳岩」と呼ばれる奇岩で、川縁から山中に向かって続いています。鬱蒼と緑に囲まれたその林の中腹辺りに新たに勝央町指定文化財となった「河神・八臂弁財天石像」がひっそりとおわします。町内一の瀑布「幸滝」もすぐ側にあり、天正時代には、山頂付近に「永昌寺」が建てられていたと言われています。

滝川水流の守護神八臂弁財天(町文化財指定)

赤木耕三（勝央町文化財保護委員会 委員長）

町内を流れる滝川が河内と平の境界となる川筋に弁天渕と称する場所がある、その右岸は天邪鬼が積み重ねたという畳岩山がある。

天正の時代、間山に建っていたといわれる永昌寺をこの山頂に移した。山北には幸滝がある等と、このように書かれた『東作誌』『植月村誌』があります。

1．弁財天･畳岩登り口

○現場を訪れた大学教授

平成 28 年暮れ 12 月 26 日 冷たい雨の中、国学院大学の花部英雄教授がこの地を訪れ、案内した私に

「このような場所は、間山の修験者等が関連し、仏教の広がりの行場と推測される。」と評価された。『日本伝説大系』という文献により来町されたことを知り、この日、私は教授に対し、この畳岩に石像が祀られていることを話し後日に報告することとした。

○八臂弁財天の確認と弁財渕の特定

冒頭の伝説の地畳岩山中腹には川渕を見下す状態で、戴冠が鳥居、後舟形八臂弁財天石造立像があり八臂（腕）には様々な武器を持たれていて

安永六年三月　願爲富繁建

と彫られています。紙面の都合で、経緯について詳細省略をさせていただきますが、教授との連絡、文献、近在の調査等、約 1 年を要し、

2．調査の様子

この弁財天は、早天続きの安永年間に命の水である滝川の流れがとどまることがないことを富として願い祀ったことが判明してまいりました。近辺に祀られた弁財天の像容は宇賀神習合、七福神などと様々なお姿で各所に祀られてきていますが、このたびの弁財天は、古来日本に伝わってきた元来の水神、仏教の守護神そのものの像容でそれが平成の時代発見され、教授からこのことにより弁財渕特定を証する快挙とねぎらいをいただきました。

3．河神･八臂弁財天石像（部分）

○町指定文化財の決定

勝央町まちづくり基本理念のはじめには、「美しい自然に恵まれ滝川のほとりに育った勝央町民」という言葉があります。

伝説として古い書物に書かれた場所で発見した仏神の顔は、石工の腕、また心が読める

ような優しい顔をされています。滝川の恵み、水の守り神、これら 2 つの歴史を考察し本年 1 月、「八臂弁財天石像」を勝央町指定文化財と議決致しました。

○地域の特性と建立者の推定

落差約 15 メートルの幸滝は修験の行場に必要であり、かつて山頂の永昌寺が寛文年間無住となった時、同寺の阿弥陀三尊は現観音寺に安置され、観音寺はこの地域を奥の院とよばれています。泰禅上人は観音寺住持ともなったことがあり安永 5 年には長尾山に誠心院建立をしています。この 1 年後の安永 6 年、「八臂弁財天」が祀られていますが、祀主は右上人としか他に推定できません。

これらのことは、後の課題となりますが、この一帯は歴史上の仏石が多く、町おこしが将来的に考えられる地域と言えます。

○生命の水源流滝神社参拝

滝川は、ある時は暴れましたが、早天で水少なき時には、長尾山金光坊の釣鐘を下ろして滝川の渕で浮き沈みさせ、雨乞いの儀式を昭和初期ごろまでしたこともあり、このことを初代文化財保護委員会委員長 木村増夫氏は自著「滝川のほとり」に書かれています。

水の恵みと共に育った町民の 1 人として、昨年 12 月 31 日、奈義町役場に届出をし、滝川の源流ともいえる中国山脈の滝山に登り滝神社に郷土史研究者の福原氏と 2 人で参拝しました。清らかな水を一口いただき冷風と共に雪の降り出したころ、神社に再度合掌して感謝を申し上げ下山いたしました。この日のことは、忘れることのできない 1 日となりました。

4．石窟の役行者石像

5．妙見大菩薩　左は、筆者

【地図】

■参考文献
石仏大辞典　東作誌　植月村誌　白玉拾
勝田郡誌　勝央町誌　ふるさと平誌
小林禮二郎記間山

■協力者と団体
尾田武雄　福原教雄　横田俊夫
観音寺　平地区歴史研究会